

2023年7月14日
CAN-Japan SB58報告会

SB58の概要・論点

気候ネットワーク 田中十紀恵

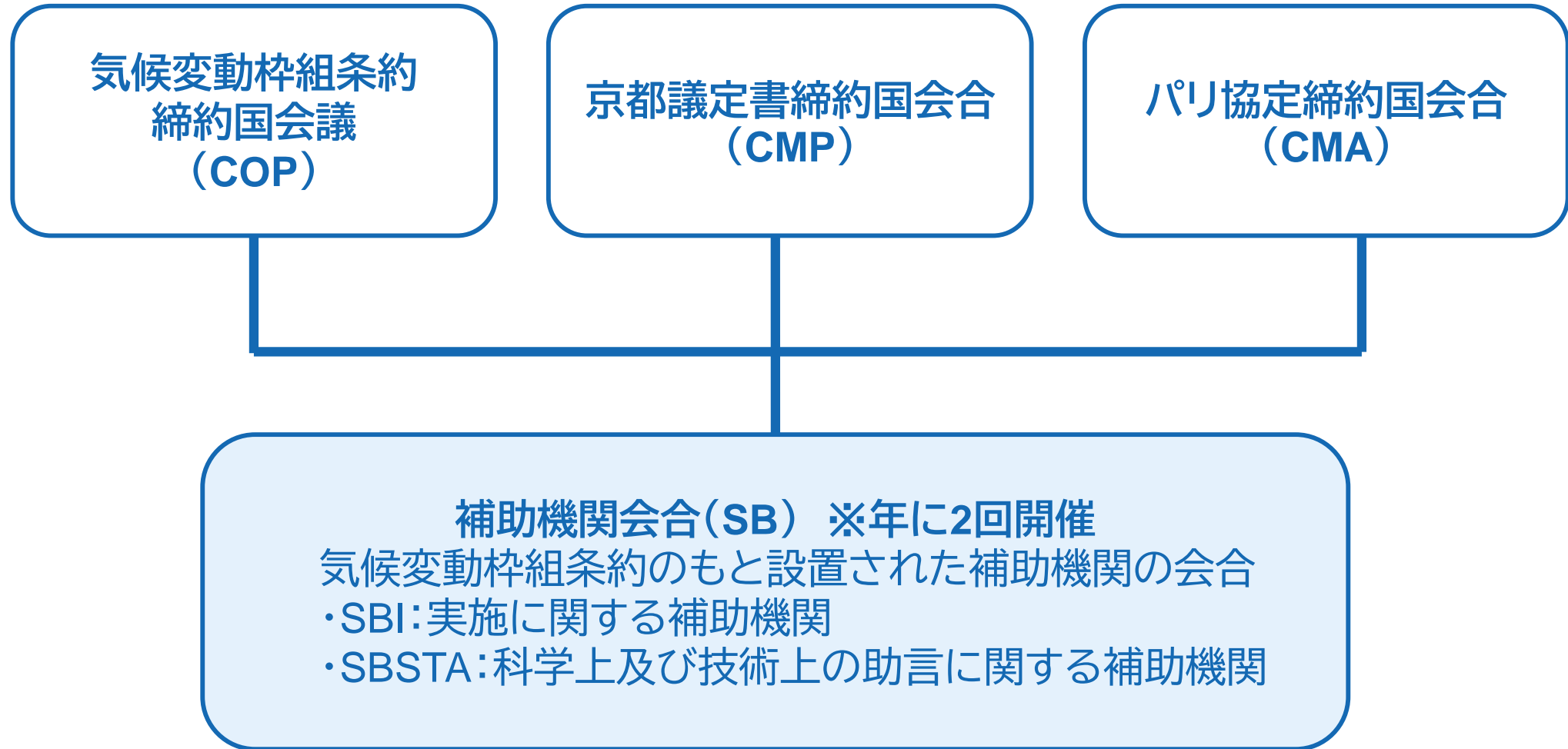


気候変動枠組条約第58回補助機関会合(SB58)

- 2023年6月5日～15日に、ドイツ・ボンで開催
- 6,303人が現地参加
(事務局発表。うち、NGOからは1,752人が参加)



補助機関会合の位置づけ



COP27からSB58まで

2023年3月

IPCC第6次評価報告書 統合報告書が発表

2023年4月

G7札幌 気候・エネルギー・環境大臣会合開催→環境大臣コミュニケ

2023年5月

G7広島サミット開催→首脳コミュニケ

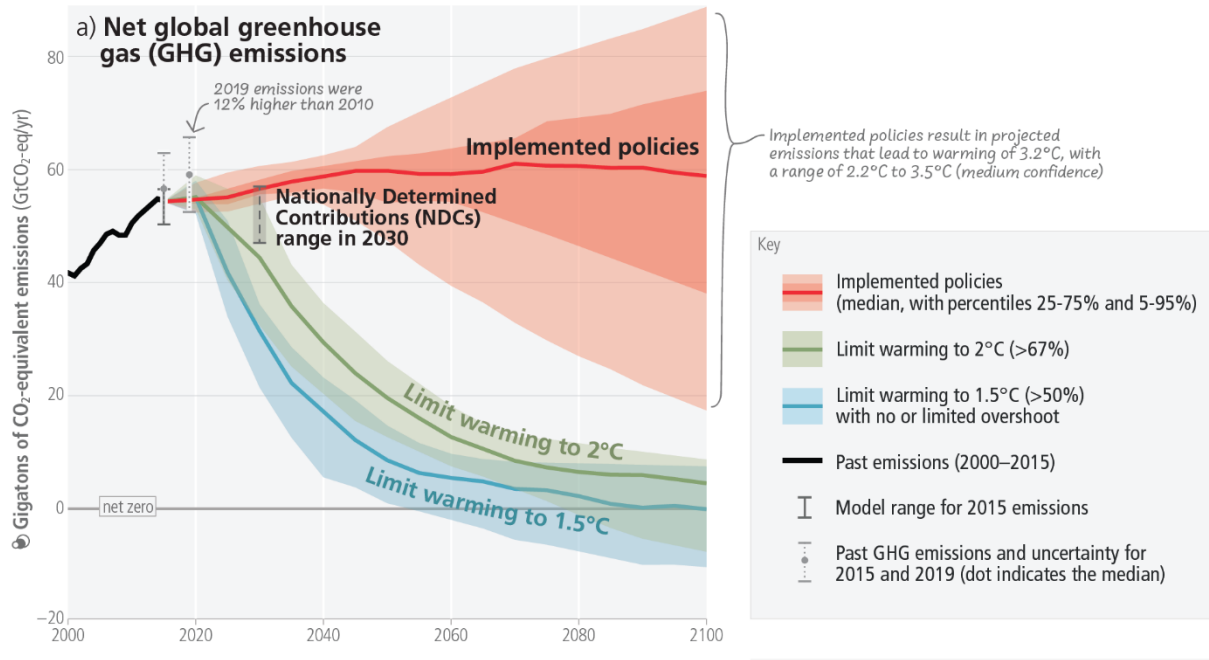
2023年6月

SB58開催

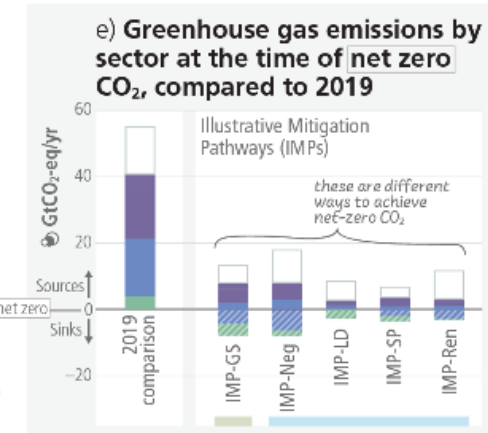
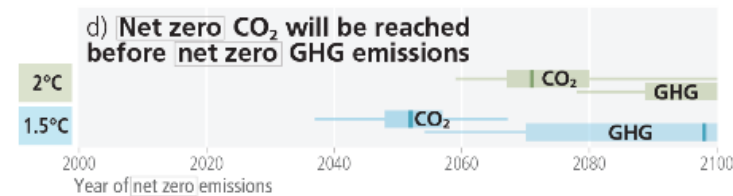
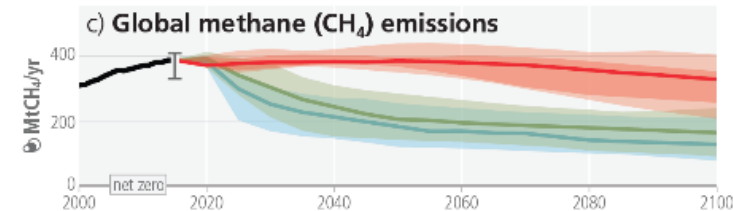
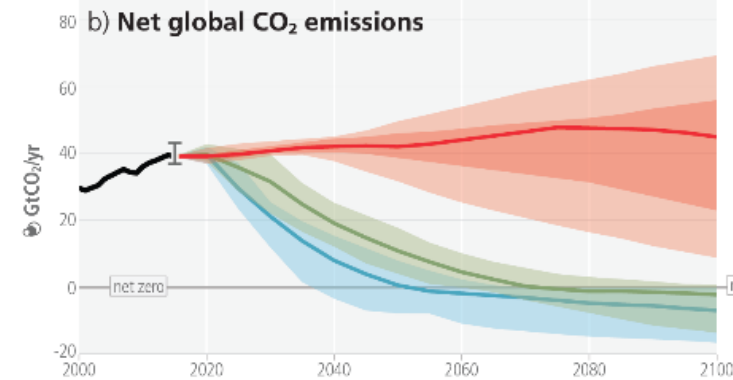
IPCC第6次評価報告書 統合報告書

Limiting warming to 1.5°C and 2°C involves rapid, deep and in most cases immediate greenhouse gas emission reductions

Net zero CO₂ and net zero GHG emissions can be achieved through strong reductions across all sectors



- 気温上昇を1.5°Cに抑えるためには、急速かつ大幅、即時の温室効果ガス排出削減が必要



排出削減について

- 1.5°C以内に抑えるためには、世界全体で温室効果ガス排出量を2030年までに43%、2035年までに60%の削減(2019年比)が必要であることが示される

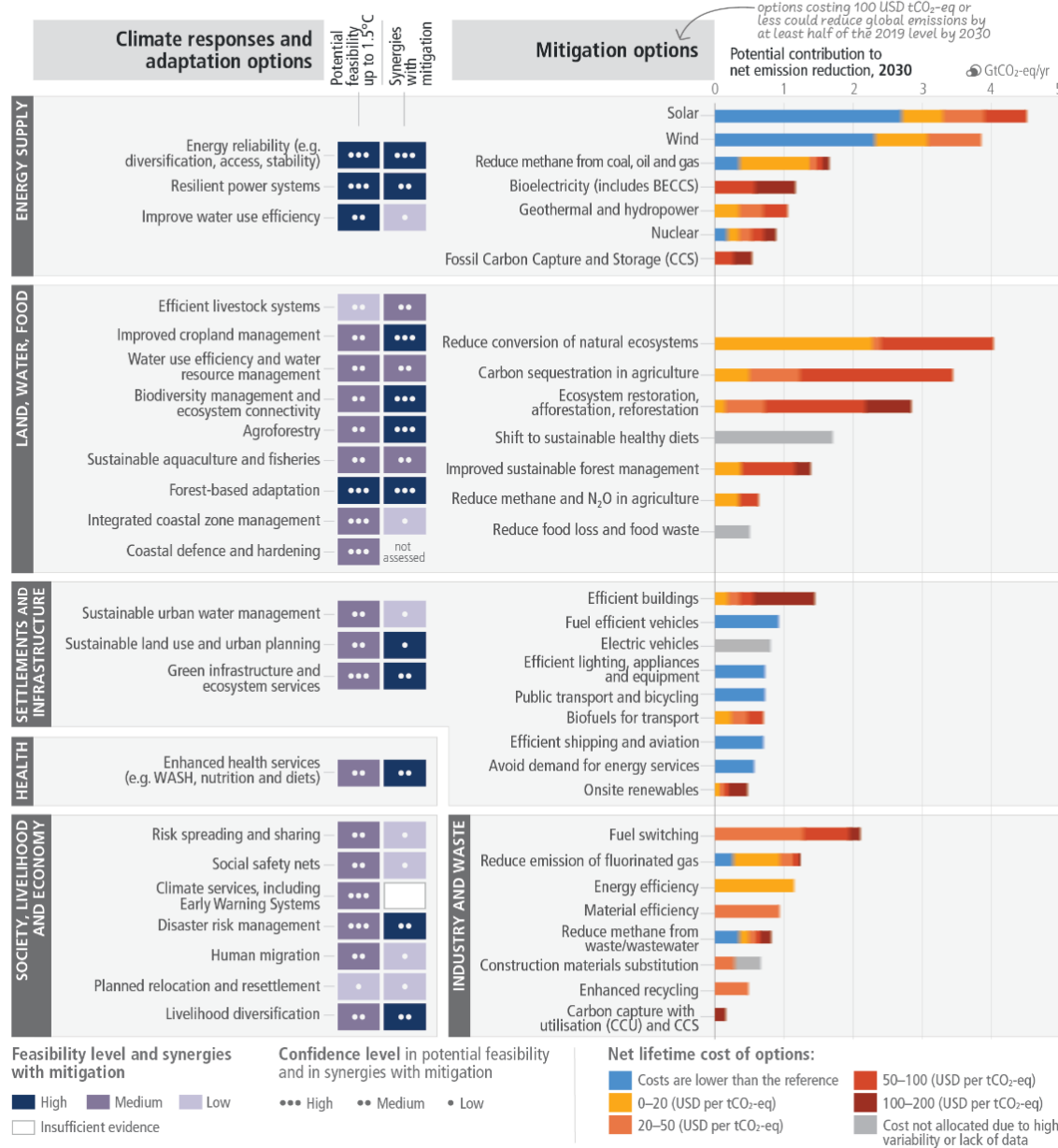
Table SPM.1: Greenhouse gas and CO₂ emission reductions from 2019, median and 5-95 percentiles. {3.3.1, 4.1, Table 3.1, Figure 2.5, Box SPM.1}

	Reductions from 2019 emission levels (%)				
		2030	2035	2040	2050
Limit warming to 1.5°C (>50%) with no or limited overshoot	GHS	43 [34-60]	60 [49-77]	69 [58-90]	84 [73-98]
	CO ₂	48 [36-69]	65 [50-96]	80 [61-109]	99 [79-119]
Limit warming to 2°C (>67%)	GHG	21 [1-42]	35 [22-55]	46 [34-63]	64 [53-77]
	CO ₂	22 [1-44]	37 [21-59]	51 [36-70]	73 [55-90]

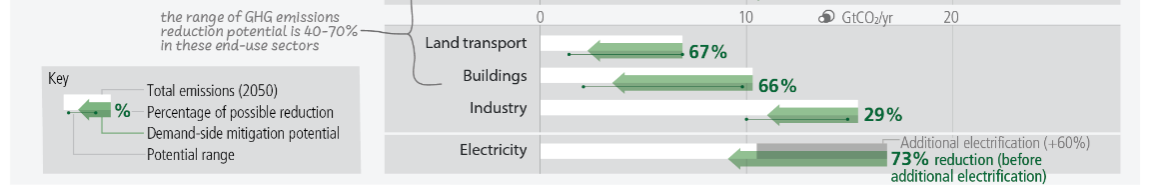
政策決定者向け要約(https://www.ipcc.ch/report/ar6/syr/downloads/report/IPCC_AR6_SYR_SPM.pdf)より、Table SPM.1

There are multiple opportunities for scaling up climate action

a) Feasibility of climate responses and adaptation, and potential of mitigation options in the near-term



b) Potential of demand-side mitigation options by 2050



- この10年の間にも、大幅で急速・持続可能な緩和と適応の加速化の必要性
- どのセクターにも、2030年までに温室効果ガス排出量を半減させるための利用可能なオプションはある

日本は、化石燃料から速やかに転換し、費用対効果が高く、確実に削減につながる対策(省エネ、再エネ)を国内外で実施することが求められている

G7首脳コミュニケ(気候変動・エネルギー分野)

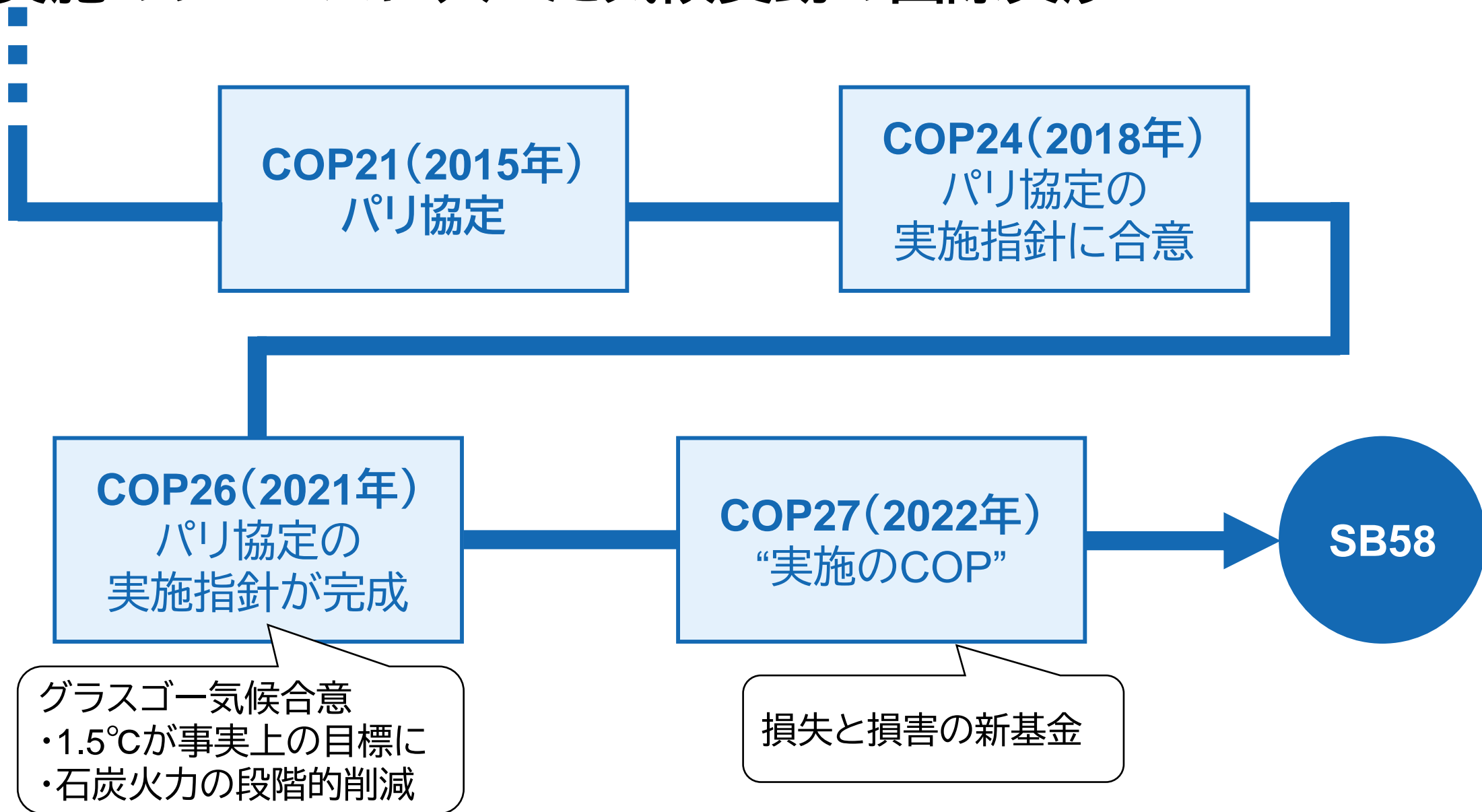
気候変動

- IPCC AR6「世界の温室効果ガス排出量を2030年までに43%削減、2035年までに60%削減(2019年比)」の緊急性に言及
- 全ての締約国(特に主要経済国)に野心の強化を求める
- 途上国への公正なエネルギー移行に対する支援のコミットメント
- 年間1,000億ドルの資金目標を2023年に達成できるよう他の先進国とも協働する
- 多様な資金源、民間資金の動員、潜在的な提供国からの拠出に言及
- カーボנקレジット市場や重要鉱物サプライチェーンの構築に言及

エネルギー

- 2030年までの再生可能エネルギーの導入目標の提示
- 2035年までの電力部門の全部または大部分の脱炭素化
- 国内の排出削減対策が講じられていない石炭火力発電のフェーズアウトを加速
- ロシアのウクライナ侵攻を踏まえ、ガス部門への公共投資を許容
- 水素・アンモニアの利用(厳格な条件付き)、CCUS、原子力に言及

実施のフェーズに入った気候変動の国際交渉



2023～2025年にかけての気候変動の国際交渉

2024/2025年に
各国が次のNDC(国が決定
する貢献)を提出する

進捗評価 (GST)

- 第1回GSTの成果物(COP28、2023年)

適応

- GGA に関するグラスゴー・シャルム・エル・シェイク作業プログラム(GlaSS)が2023年に終了

損失と損害

- 新基金と資金アレンジメント:移行委員会(TC)がCOP28までに提言を作成

6条

- 本格運用に向けた作業が進行中

資金

- 1,000億ドル気候資金目標
- ポスト2025年の資金目標(NCQG)の作業計画(2024年まで)

緑の気候基金 (GCF)

- 2024年～2027年に向けた第2次増資プロセス(2023年10月にプレッジ会合の予定)

など、今後の気候変動対策に関わる重大な決定がいくつもなされる予定

“IPCCとWMOの報告書によると、気候変動は加速しているが、それを食い止めるための私たちの行動は遅れている。”

“代表団には、勇気をもって、共通の善 (Common good) を優先することが自国の利益を守ることになることを理解し、行動することを強く求めたい。”

“全ての分野で前進しなければならない。”

“私たちはティッピングポイント(転換点)を迎えている。”

(サイモン・スティール事務局長による開幕スピーチより抜粋)

<https://unfccc.int/news/simon-stiell-at-sb58-opening-we-are-at-a-tipping-point>



主な交渉議題(アジェンダ)

進捗評価
(GST)

- グローバル・ストックテイク(GST)

適応

- 世界全体の適応目標(GGA)に関するグラスゴー・シャルム・エル・シェイク作業計画(GlaSS)

損失と損害

- サンティアゴ・ネットワーク

6条

- 6条2項(協力的アプローチ)、4項(市場メカニズム)、8項(非市場アプローチ)

公正な移行

- 公正な移行作業計画

管理・財務等

- 2024～2025年の予算

など

緩和作業計画をめぐるアジェンダ・ファイト
終盤まで議題が採択されないまま交渉が進んだ

交渉と並行して、複数のイベント、ワークショップが開催

進捗評価 (GST)

- ・ グローバル・ストックテイク(GST) 第3回技術的対話

適応

- ・ 世界全体の適応目標(GGA)に関するグラスゴー・シャルム・エル・シェイク作業計画(GlaSS) 第6回ワークショップ

損失と損害

- ・ 第2回損失と損害に関するグラスゴー対話

6条

- ・ 6条監督委員会の第5回ミーティング

緩和

- ・ 緩和作業計画(MWP) 第1回グローバル対話、投資関連イベント

気候資金

- ・ 気候資金の新規合同数値目標(NCQG)に関する第6回技術専門家対話

など

SB58で期待されたこと

COP28での議論や国際合意に向けたロードマップを提示すること

- 気温上昇を1.5°Cに抑えるための目標引き上げ、行動の加速
- 化石燃料から再生可能エネルギーへの速やかで公正な移行
- 深刻化する気候変動による悪影響への対応



ありがとうございました！



@kikonetwork



@kikonetwork



kikonetwork



<https://www.kiconet.org/>